

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地			
織田ファッション専門学校		昭和51年9月1日	鈴木 貴子	〒 164-0001 (住所) 東京都中野区中野5-32-8 (電話) 03-3228-2111			
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地			
学校法人織田学園		昭和40年10月21日	鈴木 貴子	〒 164-0001 (住所) 東京都中野区中野5-32-8 (電話) 03-3228-2111			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
服飾・家政	服飾専門課程	ファッションデザイン科	平成20(2008)年度	-	令和3(2021)年度		
学科の目的	服飾に関する専門的学理と技術を教授するとともに、就職した現場で大切なビジネス感覚を持ち合わせ、さらにデザインだけでなく服の構造であるパターンや仕様が理解できるデザイナーを目指す。						
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格等)	ブランドを持つデザイナーからのレクチャーとオリジナルブランド企画で、トレンドと自分らしさを兼ね備えたファッションデザイナーを目指す。 【取得可能な資格】パターンメイキング技術検定、ファッション色彩能力検定、ファッションビジネス能力検定、ファッション販売能力検定、ファッション3Dモデリスト検定等						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	※単位時間、単位いずれかに記入	2,000 単位時間	625 単位時間	単位時間	1,535 単位時間	単位時間
			単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率			
60人	35人	2人	6%	20%			
就職等の状況	■卒業者数(C)		14人				
	■就職希望者数(D)		0人				
	■就職者数(E)		0人				
	■地元就職者数(F)		0人				
	■就職率(E/D)		0%				
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		0%				
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		0%				
	■進学者数		13人				
	■その他		1人				
	(令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		無				
	※有の場合、例えば以下について任意記載						
当該学科のホームページURL	https://fashion.oda.ac.jp/academics/design/						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)						
	総授業時数		2,160 単位時間				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		58 単位時間					
うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間					
うち必修授業時数		2,000 単位時間					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		620 単位時間					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間					
(B: 単位数による算定)							
総授業時数		単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位					
うち企業等と連携した演習の授業時数		単位					
うち必修授業時数		単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		5人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		0人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		1人				
	計		6人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		2人				

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本カリキュラム検討会議で教育理念に基づいた教育課程を立案し、企業の意見や要請等を反映させ、実践的かつ専門的な職業教育に適した教育課程を編成する。2年間を通して服飾造形に必要な基本的技術を理解した上で、産学連携の実践的な教育を行うことを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

委員会は校長の下に組織され、教育課程への意見や提案をし審議する教育課程編成における諮問機関として位置付けられている。出された意見等についてはカリキュラム検討会議にて教育課程に反映できるかどうか検討している。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
本多 徹	日本モデリスト協会 事務局長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	①
太田 みぎわ	WaCCa デザイナー	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	③
上島 朋子	株式会社near. パタンナー	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	③
鈴木 貴子	織田学園理事長 織田ファッション専門学校 校長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	-
中 宏樹	織田ファッション専門学校 教員	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	-
関 由貴子	織田ファッション専門学校 教員	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	-

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年8月28日 13:30～14:45

第2回 令和6年3月18日 10:00～11:15

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

デザイン科とテクニカル科が合同で行っている学年末コンテストについて、テクニカル部門やデザイン部門などの複数の賞を設けたらどうか、学年を越えて自分で応募部門を選べるようにしたらどうかとご意見をいただいた。学科ごとに偏りがでないようなカリキュラムとコンテストになるよう検討している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

感性を豊かにし、クリエイションを表現するための基礎力、売れる商品をデザインするための企画力を養い、アパレル業界のしくみを理解できる人材を育てるため、企業からの直接指導を受け、現場の厳しさや最新技術等を学ぶことを基本方針とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

企業に講師派遣を依頼し担当教員と連携しながら実習を行う。講師の指導の下、学生たちがリサーチ、企画、デザイン、パターン製作をし、サンプルを縫製を行い、展示会の日程をお客様へ告知し受注を受ける。一人一人のお客様に対してフィッティングをし、ディテールをカスタマイズして注文された商品を生産し、出来上がった商品を学生からのメッセージを付けてお客様へ郵送するという一連の流れを行う。実習でのお客様対応、技術習得状況等について企業の講師の方から評価を受ける。報告会では、学生がプレゼンを行い素材提供の企業からも評価を受ける。企業等からの評価を踏まえて担当教員が成績評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
服飾造形 デザインⅡ (服飾造形Ⅱ)	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	リサーチ、企画、デザイン、パターンメイキング、サンプル検討、展示会、反省会まで企業の一連の流れを学ぶ。受注した商品を各お客様に向けて本生産する。サンプル製作、オーダー品の製作した商品を検品していただく。	株式会社カラビナクリエイション
服飾造形 パターンメイキングⅡ (服飾造形Ⅱ)			
服飾造形 ソーイングⅡ (服飾造形Ⅱ)			
企業コラボⅠ			

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

アパレル関連企業及び繊維産業界の実践的なノウハウを学生に教育指導するため及び学生への指導力向上のため、教員研修規程に則り外部の研修を受け、教員の質向上を図ることを基本方針としている。毎年各教員が研修課題を設定し、年度の初めに校長はじめ本校専任教員全員が参加する報告会にて発表の機会を設けている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	新ものづくり研究会	連携企業等:	アズマ株式会社
期間:	令和5年5月～(毎月1回程度)	対象:	教員
内容	連携企業等との研究を通して繊維商社による展示会にて新素材を使用しての提案をする。		
研修名:	第23回技術研究会	連携企業等:	日本モデリスト協会
期間:	令和5年11月18日	対象:	教員
内容	アパレル関係者よりセミナーと会報により技術的疑問を解決するための指導を受ける。		
研修名:	弥生会	連携企業等:	弥生会
期間:	令和5年4月～(毎月1回)	対象:	教員
内容	パターンや縫製の疑問点などセミナーをとって学ぶ。		
研修名:	コンシールファスナーの付け方	連携企業等:	ベビーロック
期間:	令和5年7月31日	対象:	教員
内容	コンシールファスナーの付け方を学び学生への指導方法につなげる。		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	教員教職課程研修会	連携企業等:	東京都専修学校各種学校協会
期間:	令和5年6月16日～(全25回)	対象:	教員
内容	教育論、教員と指導、学生と支援、学校のマネジメントと教職員の協働など学校の教職員として必要なスキルと知識を学ぶ。		
研修名:	データから見る2024年度入学生に求められる学生指導とは	連携企業等:	株式会社進研アド
期間:	令和5年7月25日	対象:	教職員
内容	入学者数減少と学力低下が専門学校教育に及ぼす影響とそれに伴う学生指導の方法を学ぶ。		
研修名:	デジタル教育研修会	連携企業等:	東京都専修学校各種学校協会
期間:	令和5年10月17日	対象:	教員
内容	先端テクノロジーを活用したケーススタディを通して教育とVR・メタバースと学習ログデータの利活用を学ぶ。		
研修名:	生成AI時代のプロンプトエンジニアリング	連携企業等:	ひふみ株式会社
期間:	令和5年10月27日	対象:	教員
内容	プロンプトデザインの考え方、生成AIの活用術について学ぶ。		
研修名:	進化するバーチャルコミュニケーション	連携企業等:	クラスター株式会社
期間:	令和5年10月27日	対象:	教員
内容	メタバースのビジネス活用と可能性を学ぶ。		
研修名:	Metaverse Japan共催セッション	連携企業等:	
期間:	令和5年10月27日	対象:	教員
内容	メタバースとAIテクノロジーによって起こる日常生活とビジネスの変化と未来の社会への影響について学ぶ。		

研修名:	スクールコンプライアンスの視点から考える学校経営～価値観が多様化する中で～	連携企業等:	学習院大学文学部教育科 黒川教授
期間:	令和5年11月30日	対象:	教員
内容	学校教育法に関する基本的な理解と学校事故及びいじめ問題に関わる具体的な事例検討を行い、今後の学校運営において留意すべき点を学ぶ。		
研修名:	発達障害のある学生への支援～よくあるエピソードから考える～	連携企業等:	港区発達障害者支援室
期間:	令和5年11月	対象:	教職員
内容	発達障害のある学生への支援について、臨床経験の豊富な講師から考え方や接し方について学ぶ。		
研修名:	教育メタバース研究会 メタバース×教育の可能性	連携企業等:	クラスター株式会社
期間:	令和5年12月9日	対象:	教員
内容	メタバースの活用とデジタル人材育成やクラスターの教育への取り組みを学ぶ。		
研修名:	就活に進む！勇気をつくるために～就活を通じて身に着ける3つの人間力	連携企業等:	リッチピクチャーズ株式会社
期間:	令和6年1月30日	対象:	教職員
内容	就職指導のために、人間関係の作り方、就活を通じて身に着ける3つの人間力や異業界の雇用動向等を学ぶ。		
研修名:	実践力向上のためのVR映像教材活用説明会	連携企業等:	三菱総合研究所
期間:	令和6年1月29日	対象:	教員
内容	専修学校における先端技術活用実践の報告、AR映像教材の活用事例の紹介		
研修名:	学生支援への課題～法改正とメンタルヘルスケアの対応～	連携企業等:	東京都専修学校各種学校協会
期間:	令和6年3月6日	対象:	教員
内容	多様な学生に対する専門学校の指導と支援の実際、合理的配慮の提供、アカデミックハラスメント、中途退学予防、現代学生の傾向と指導について学ぶ。		
(3)研修等の計画			
①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名:	新ものづくり研究会	連携企業等:	アズマ株式会社
期間:	令和6年	対象:	教員
内容	連携企業等との研究を通して繊維商社による展示会にて新素材を使用しての提案をする。		
研修名:	技術研修会	連携企業等:	日本モデリスト協会
期間:	令和6年4月20日	対象:	教員
内容	アパレル関係者よりセミナーと会報により技術的疑問を解決するための指導を受ける。		
研修名:	弥生会	連携企業等:	弥生会
期間:	令和6年4月～(毎月1回)	対象:	教員
内容	パターンや縫製の疑問点などセミナーをとして学ぶ。		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	学生カウンセリング研修会	連携企業等:	東京都専修学校各種学校協会
期間:	未定	対象:	教職員
内容	学生へのカウンセリングについて学び、指導力向上を目指す。		
研修名:	就職指導担当者セミナー	連携企業等:	東京都専修学校各種学校協会
期間:	未定	対象:	教職員
内容	就職動向を学び、就職についての指導力向上を目指す。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己評価報告について学校関係者から評価と助言を得て、本校の教育活動、その他の学校運営の課題等を明確化し、客観性と透明性を高めるとともに、改善を行い学校運営と教育の質向上を図ることを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目標・育成人材像は、定められているか
(2) 学校運営	教育理念・目標に沿った運営方針が策定されているか
(3) 教育活動	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか
(4) 学修成果	生活支援の充実化は図れたか
(5) 学生支援	退学率の客観的数値(前年度比較)は改善したか
(6) 教育環境	施設・設備は、教育の必要性に十分対応できるよう整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	数値目標(入学生数80名)は達成できたか
(8) 財務	経営感覚の教職員間での共有は図れたか
(9) 法令等の遵守	コンプライアンス意識を再確認できたか
(10) 社会貢献・地域貢献	地域や地方公共団体と連携し、受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	留学生受入れ、学習・生活指導等について適切な体制が整備されているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

委員からいただいた卒業生との関係についてのご意見を参考に、卒業生も使用可能なシステムについての周知や同窓会開催を検討、卒業生向けの学校通信の作成と郵送など卒業生との関係を強化するよう努めている。また、ご評価いただいた社会貢献や地域貢献に関しても、SDGs関連のイベントに参加したり、一般向けの洋服販売を引き続き行うことを検討している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
内藤 久美	株式会社 辻洋裁店	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
松野 仁美	スタイリスト	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	卒業生
山野 晴雄	多摩地区高等学校進路指導協議会	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	有識者委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())
URL: <https://oda.ac.jp/about/reports/>
公表時期: 令和6年6月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

ホームページやパンフレットによる教育活動や取り組み等の紹介や財務状況などの学校運営について高校生、在校生、保護者、卒業生、関係者、企業等に最新情報を提供し、学園に対する理解を深めていただくとともに学校運営の透明性を確保するとともにさらなる企業等との連携および協力の推進を図ることを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	校長名、所在地、連絡先、odaの強み、理念・方針、学園沿革
(2) 各学科等の教育	学科紹介、主な履修内容、主な時間割例、入学定員、検定受験サポート
(3) 教職員	校長メッセージ、教員一覧
(4) キャリア教育・実践的職業教育	企業コラボレーション、就職支援、就職状況・就職先一覧
(5) 様々な教育活動・教育環境	キャンパスレポート、年間スケジュール
(6) 学生の生活支援	奨学金・教育ローン、住まいのサポート
(7) 学生納付金・修学支援	奨学金・教育ローン、学費
(8) 学校の財務	貸借対照表、事業活動収支計算書、財産目録、監査報告書
(9) 学校評価	自己評価報告書、学校関係者評価報告書
(10) 国際連携の状況	外国人留学生募集要項
(11) その他	ファッション学生にインタビュー!、oda fashion Vlog、卒業生VOICE

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())
URL: <https://oda.ac.jp/about/reports/>
公表時期: 令和6年6月1日

授業科目等の概要

(服飾専門課程ファッションデザイン科) 令和6年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
								講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			服飾に関する基礎知識の講義。 各製作するアイテムに関する基礎知識の講義。試験で確認をする。	1 通	56		△		○	○		○		
2	○			服飾造形デザインⅠ (服飾造形Ⅰ)	各製作するデザイン画の制作とイメージマップの制作。	1 通	15		△		○	○		○	
3	○			服飾造形パターン メーカーⅠ (服飾造形Ⅰ)	各製作物に関する作図板書での解説と実物製作のパターンメーカーとトワル組み。	1 通	186		△		○	○		○	
4	○			服飾造形ソーイングⅠ (服飾造形Ⅰ)	基本的な縫製技術の習得。原型・スカート・シャツ・ワンピース・子供服・パンツ・ジャケット・修了作品の実物製作とレポート制作。部分縫い製作。	1 通	319		△		○	○		○	
5	○			服飾造形ドレーピングⅠ (服飾造形Ⅰ)	ドレーピングの基礎と原型、タイトスカートのドレーピング。	1 通	65		△		○	○		○	
6	○			生産管理概論Ⅰ (服飾造形Ⅰ)	市場調査、縫製指示書、工程分析などを指導して実習する。	1 通	9		○			○		○	
7	○			服飾手芸Ⅰ (服飾造形Ⅰ)	服飾手芸全般における基礎知識及び技術を基にして応用発展出来るように、エンブroidery刺繍のテクニックを学ぶ。	1 通	10		△		○	○		○	
8	○			CGⅠ	PC及びグラフィックソフトの基本操作の習得。グラフィックデザインにおける知識を学び、CGソフトの設定や操作に慣れることを目的とする。	1 通	40				○	○			○
9	○			CAD	アパレルのパターンメーカーでは必須の技術である、アパレルCADの操作を習得する。基本的な設定・基本的な操作に慣れるように簡単な課題を積み重ねていく。	1 後	10		○		○	○		○	
10	○			基礎デザイン	ファッションデザインに限らず、身の回りのモノも含め『デザイン』を理解する。実習を通し、デザイン技法を理解・習得する。	1 前	20		○		○	○		○	
11	○			クリエーションⅠ	デザインとは何か、個々のオリジナル性を追求し、どういう事かを理解し学ぶ。リサーチの重要性、デザインやカラー、バランスを認識・理解する。	1 後	14		△		○	○		○	
12	○			スタイル画Ⅰ	スタイル画の基礎、プロポーション、顔、身体などの描き方、平絵、Adode Frescoの使い方を学ぶ。	1 通	36		△		○	○		○	

13	○		マテリアルⅠ	被服素材の基礎と服のデザインやパターンとの関連性を解説する。画像や実物の説明から視覚からの認知を高める。被服素材の基礎知識を習得する。	1通	34		○	△	○									
14	○		カラーⅠ	色彩の基礎知識をもとに、調和のとれた配色方法と配色テクニックを学ぶ。	1通	40		○		○	○								○
15	○		ファッションビジネス概論	講義だけでなく、グループミーティングも含め、多角的に学ぶ。アパレル業界の仕組み、流れの理解。服飾の授業との連動で商品企画。	1通	36		△		○	○								○
16	○		西洋服装史	衣服の起源と古代から現代までの西洋服飾の変遷を映像を交え解説。	1後	20		○			○								○
17	○		就職講座Ⅰ	アパレル企業の仕事の内容を理解して企業研究をし、具体的に企業で働く事の意識を高める。	1通	14		○			○								○
18	○		校外授業Ⅰ	クラスの親睦を深めるためにウォークラリーを実施。感性や知識を深めるための美術館見学など。	1通	28					○		○	○					
19	○		特別講義Ⅰ	多方面の講義を受けることによって見聞を広め、多角的な服づくりや就職活動に対応出来る柔軟さを持たせる。	1通	24		○			○								○
20	○		服飾造形論Ⅱ (服飾造形Ⅱ)	各製作するアイテム、素材に関する基礎知識の講義。試験で確認する。	2通	30		○			○								○
21	○		服飾造形デザインⅡ (服飾造形Ⅱ)	各製作するデザイン画の製作とイメージマップの製作。デザインバリエーションの展開。	2通	16		△		○	○								○
22	○		服飾造形パターンメイキングⅡ (服飾造形Ⅱ)	各製作物に関する作図板書での解説と実物製作のパターンメイキングとトワル組み。原型からのパターン展開。	2通	200		△		○	○								○
23	○		服飾造形ソーイングⅡ (服飾造形Ⅱ)	工業的な縫製方法、伸びる素材、厚い素材の基本的な知識を学ぶ。	2通	386		△		○	○								○
24	○		服飾造形ドレーピングⅡ (服飾造形Ⅱ)	1年次の基本をもとに 응용して学ぶ。原型、ダーツ遊び、ヨーク付きギャザースカート、オーバーブラウス、ワンス、デザインスカート、ドレーピング。	2通	80		△		○	○								○
25	○		生産管理概論Ⅱ (服飾造形Ⅱ)	アパレルの生産システムを学ぶ。市場調査、縫製指示書、工程分析などを指導して実習する。	2通	10		○			○								○
26	○		服飾手芸Ⅱ (服飾造形Ⅱ)	1年次の基本をもとに色々な材料で応用する。ビーズ刺繍、キルティング、リボン刺繍のテクニックを学ぶ。型入れの帽子を製作する。	2通	8		△		○	○								○
27	○		CGⅡ	PHOTOSHOP、ILLUSTRATOR、POWERPOINTの操作およびCGによるアパレル企画分野でのプレゼンテーション力のスキルアップ。プリント柄のデザイン展開の理解。	2通	42		△		○	○								○

28	○		3DCAD I	CLOの基本操作を習得をはじめとして、レンダリング出力、モーション設定、生地物性測定など、幅広い技術を身に付ける。	2 前	40		○	○	○	○						
29	○		企業コラボ I	リサーチ、企画、デザイン、フィッティングなど企画から生産までの企業の仕事の流れを経験する。	2 通	18		○		○				○	○		
30	○		クリエイション II	デザイン発想方法のヴァリエーションを増やす。コンセプトが伝わるデザインの作り方を理解して、伝えられるようになる。様々な発想方法を実践で学ぶ。	2 通	32		△		○	○					○	
31	○		スタイル画 II	基本アイテムを正確に描く。表現力の向上。	2 通	50				○	○					○	
32	○		マテリアル II	素材の流行、選択、管理を解説する。繊維の基本の加工を理解する。染色の基礎を理解する。流行による素材の方向性の変化を理解する。	2 前	20		○		△	○					○	
33	○		カラー II	色彩の基礎知識をもとに、個性ある様式美の色彩表現や、想像力を活かしたファッションイメージの色彩計画が行なえることを目標とする。	2 前	14		△		○	○					○	
34	○		就職講座 II	技術職として就職活動するための必要なことを学び、業界新聞を読んでアパレル業界の現状を知る。具体的な履歴書の書き方インターシップの受け方などを指導。	2 通	16		○			○					○	○
35	○		校外授業 II	研修旅行として企業コラボに関係するデニムに関する工場見学を実施。その他ピキーズショー見学や美術館見学を通して知識と感性を養う。	2 通	40					○			○	○		
36	○		特別講義 II	多方面の講義を受けることによって見聞を広め、多角的な服づくりや就職活動に対応出来る柔軟さを持たせる。	2 通	22		○			○					○	
37		○	ゼミナール CAD I	CADオペレーション能力の向上。各自で課題を設定しCADオペレーション、パターンメイキングを習得する。	2 後	40					○	○			○		
38		○	ゼミナール 3DCAD I	CLO Iのステップアップコース。基本的な内容の復習とオリジナル表現を追求する。	2 後	40		△		○	○				○		
39		○	ゼミナール アートクリエイション	過去から現代まで様々な形で表され評価されてきたアート作品を学び、自身で作品を製作し表現の幅を広げる。	2 後	40		○		○	○				○		
40		○	ゼミナール パタンナーコース	パタンナーの業務フローに沿って授業を行いパタンナーのリアルな体験をする。	2 後	40		△		○	○					○	
合計						40	科目	2160 単位 (単位時間)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
すべての課題を提出すること。各教科の出席が2/3以上であること。各卒業要件：教科の成績がC以上であること。所定の期日までに学費等を納めていること。		1学年の学期区分	2期
履修方法：必修科目は全学生が履修する。自由選択科目は任意で履修する。		1学期の授業期間	平均16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。